

公益社団法人 長野グライダー協会

平成29(2017)年度 事業報告

平成29年5月1日から30年4月30日まで

平成30年5月

平成29年度の理事会にて承認された事業計画書に基づき、以下の活動を行った。

1. 航空スポーツに関する訓練

1) 会員通常訓練

土日を中心に94日のフライト活動と、11日の整備活動、合計105日間の活動を計画した。

実際には、92日間のフライト活動と、11日間の整備活動を行った。

参加者は毎回10～20人。科目の基礎練習をはじめ、リッジソアリング、サーマルソアリング、クロスカントリーなどを通じて各会員が技量の向上に努めた。特に長野の特徴である長距離クロスカントリー飛行、および山岳波上昇気流を活用した高高度飛行は、今年度も多数、安全に実施することができた。

当年度は、8月を機体の整備期間として充当し、整備しやすい環境の中、多数の整備参加者を募り、効率的に整備作業と耐空検査を実施することができた。

冬期間は計画通り1月を酷暑のため活動休止とした。活動再開は2月からだったが、結果的に積雪が多く、2月のフライト活動はほとんど行えず3月からの実質スタートとなった。

2) 山岳滑翔体験会

ホームページやチラシ、滑空協会の機関誌を通じて山岳滑翔をPRし、通年での体験飛行に社会人や、大学生、高校生が参加した。長野の地域特性を理解してもらえる機会となった。

3) 学生合宿の受け入れ

現在の学生会員大学は、防衛大学校、関西外国語大学、学習院大学、京都大学、信州大学の5校。各大学とも宿泊形式の合宿を中心に長野滑空場に来場し、ピュアグライダー、モータグライダーを活用してフライト練習活動をおこなった。

またその他大学の学生、OB等の訪問も多く、体験搭乗の他、一日会員として活動に参加した。

(慶應大学、明治大学、東海大学、名古屋大学など)

4) ナガノフライトサービスの運用

活動日に運用し、当協会の運航とともに、ドクターヘリコプターや報道機関等のヘリコプターにトラフィックや気象情報を提供することによって、安全な飛行を確保することができた。

5) グライダー体験飛行

長野市内外より、ホームページや看板、飛行中のグライダーを観て多数の方々が滑空場を訪れた。

グライダー、モータグライダーの体験搭乗も多く、航空スポーツのすばらしさを伝えることができた。

グライダーの体験搭乗者 ; 長野市民 13人、その他一般 60人

モータグライダーの体験搭乗者 ; 一般5人

合計、体験搭乗参加者数 ; 延べ 78人

2. 航空スポーツに関する競技会及び研究会の開催

1) 国際記録会オンラインコンテストへの参加

当クラブの参加者数15人、フライト回数107回(2017[平成29]／9まで)。クラブとして日本で3位、全世界で635位(12,837.62ポイント)の記録を残した。コンテストへの参加によりウェーブやクロスカントリーの技術力の向上が図れたとともに、長野の滑空環境の良さがアピールできた。

2) 競技会開催のための研究・勉強会の推進

個人の操縦技術の向上を目指し、より効率的なサーマリングフライトに取り組んだ。

3) スカイスports交流事業

10/14、全国のグライダークラブ代表者が参加する『クラブミーティング』が北海道滝川市のSATAにおいて開催された。当協会からは小高氏が参加した。特に若手育成の現状とノウハウ、指導などに関して様々な情報交換をおこなった。

3. 航空スポーツに関する教育指導体制の充実

1) 指導者の育成、教育証明取得の支援

新たに教育証明を取得した教官1人(谷垣教官)が、長野グライダー協会の教官としても理事会で承認され、飛行教育を開始した。

2) 指定養成施設の維持とライセンスの育成

会員2人が入校中で、学科と実技の教育を実施し、ライセンス取得を目指している。

3) 特定操縦技能審査業務

技量維持のために義務付けられている2年毎に必要な審査は、当協会の教官を中心に会員に対して実施している。

今年度は15人ほどが特定操縦技能審査を受審し、全員合格した。

4) 各種講習会の開催

安全への対応力、対処力を向上させ、安全な活動を行うため、「異常姿勢からの回復操作」の座学と実地練習を行った。講師は日本グライダークラブ理事の櫻井玲子氏。期間は10/20、21。天候に恵まれず、予定の4日間よりは実質短縮されたが、長野の教官を中心に実地練習を実施した。その対処操作法は今後会員に教育伝授される予定である。一般に小型航空機の事故が多い状況下で、非常に良い安全向上の取り組みと考える。今後も継続的に開催したい。

4. 会誌の発行、資料の配布

1) ツイッターの管理・更新

ホームページのトップページに、指定養成施設であることを掲示し、グライダーパイロットスクールをPRした。ブログに代えて、ツイッターで会員の話題を掲示し、活動内容を伝えることに努めた。

2) 広報誌発行の検討

広報誌の発行は実施できなかったが、ツイッターにて対応した。

5. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1) 多目的広場の管理受託及び維持管理

訓練の安全確保のためと、緊急時の一般航空機の飛来に備えて、多目的広場(滑空場)の維持管理活動をおこなった。(滑走路の平坦化整備、草刈り、ゴミ拾いなど)。およびギャラリー安全対策として、注意看板やロープ、案内説明板などを設置した。

2) 滑走路の整備

特に11/11、12の二日間は、重機3台をレンタルし、大々的に滑走路の土木整備と草刈りを実施した。会員25人が参加し、滑走路の整備作業をおこなった。

作業内容; 堤防の雑木伐採、北側駐機場の凸凹削りと平坦化、滑走路へこみへの土投入と転圧、全滑走路の転圧。ピスト横のランウェイ手前に、ギャラリーへの注意喚起用としてトラロープを設置した。

3) 滑走路延長・誘導路計画の推進

滑走路南側の延長の可能性について、河川事務所の堤防工事等の計画に関する情報の収集に努めた。

4) 機材の整備など

7/29～8/26で車両の整備、および機体の整備と耐空検査を実施した。

クラブ機4機がすべて耐空検査を終了し、運航を継続している。

ウインチはエンジンミッション内部のデタントスプリングが折損。分解し破損した部品を見つけて溶接にて修理した。その後同様のトラブルが再度発生。正規の交換部品(デタントスプリング)を購入済み。'18年夏の整備期間に再度分解し交換予定。

ウインチ修理中は、他グライダークラブの一つである中部航空連盟 岐阜支部よりウインチを借用させていただくことができた。ウインチ操作教授のために、先方の会員が長野に来場し体験飛行や会員との交流ができた。

JA2338(ロータックスファルケ)は'17年12月頃からエンジンの始動が悪くなり、活動に支障をきたした。結局、点火系の回路交換と冷却系ラジエターを大型のものに交換、強化し、'18年3月以降は快調にフライト活動をおこなっている。

5) 長野市スポーツ協会への参加

協会主催の各種会議に出席した。

また長野マラソンのボランティアに2人が参加した。

6) 太郎山愛護会への参加

5/27、10/15に開催された愛護会のトレッキング行事をロータックスファルケで空撮し、データを愛護会に提供することで、地域の活動に貢献できた。

7) 新会員募集活動

当会ホームページでの告知や体験搭乗、1日会員制度を経て、9人の新規加入があった。

信州大学新入生への入会勧誘活動では、ASK21を貸し出して構内展示を実施した。

'18年度は12人の入部希望があった。今後の信大航空部の活動拡大が期待できる。

8) 旧クミ林を協会で賃借してトレーラーの駐車場として整備し、引き続き会員の利便性の向上を図っている。

平成29(2017)年度活動記録

《 クラブ会員のフライト活動関連 》

- ・7/29～8/2 整備期間(耐空検査終了)
- ・10/20～23 EMFT回復訓練。うち、20、21日の2日間、EMFT 訓練フライトを実施。
- ・12/16 飛び収め、納会
- ・12/16 大掃除
- ・12/17～1/31 冬季シーズンオフ
- ・2/1 フライト再開。ただし2月は積雪多く、ほとんどフライトできず。3月に入りようやく飛べるようになった。

《 整備活動記録 》

- ・4/23 ウインチミッションのデタントスプリングが折損。使用不能に。
→ 中航連岐阜からウインチ借用し、4/29に岐阜→長野に陸送。
- ・5/3 破損したデタントスプリングを溶接修理、再組立で試験曳航成功。
- ・5/7 岐阜から借用したウインチを岐阜に陸送 8 時間。
途中、ブレーキアラーム音が出て難儀するが、無事に返却した。
- ・7/29、30 ウインチ、車両整備、ランウェイ山側にトラロープとポールを設置。
- ・8/5、6 プハッチ、Jr 機体整備、草刈り。
ASK21 は JMGC に発送(左前縁傷の修理とキャノピー交換)
→ キャノピーは '18/2 月に延期。再度陸送した。
- ・8/19、20 耐空検査書類作成、準備
- ・8/26 3機耐空検査実施(21YP、2518、2524)。練習再開。
- ・11/11、12 ランウェイ土木整備(でっぱり削り、土入れ、ローラかけ)。ローラ、ユンボ、藪刈機。
- ※ 12 月、ファルケのエンジンが始動不調。
- ※ 12/17～1/31 冬季シーズンオフ
- ・2/11～23 ASK21、キャノピー交換のため牽引陸送、返送。交換完了。
- ・3/17、18 ウインチミッションのデタントスプリングが再び折れ。溶接で修理、翌日復帰。
- ・3/24 ファルケエンジン回り強化改造完了。フライト再開。

《 一般市民向け活動 》

- ・4/15 長野マラソンへのボランティア参加。2人参加(佐藤俊樹氏、田中義訓氏)
- ・5/27(土)、10/15(日) 太郎山トレッキング空撮実施。
- ・長野市民の体験搭乗実績

ピュア 長野市民; 13発、その他一般; 60発

モグラ その他一般;5発

合計 長野市民 13発、その他一般65発。 全合計 78発

《 関連活動 》

・10/14 クラブミーティングへの参加(小高氏)

以下のテーマで情報交換、

1. 各クラブからの報告

宮城、JSC、NPO関宿、日本学生航空連盟、長野、中航連、関西エアロ、SATA

2. JSA からの報告

インストラクターマニュアル委員会、安全委員会、その他

3. 今後のクラブミーティングの方向性

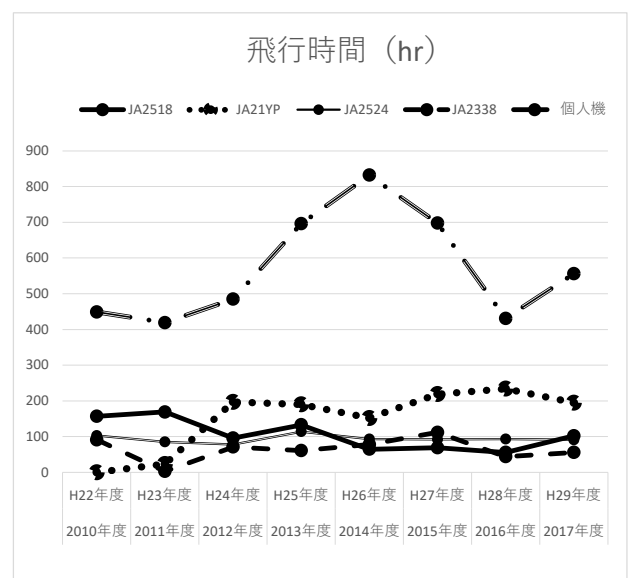
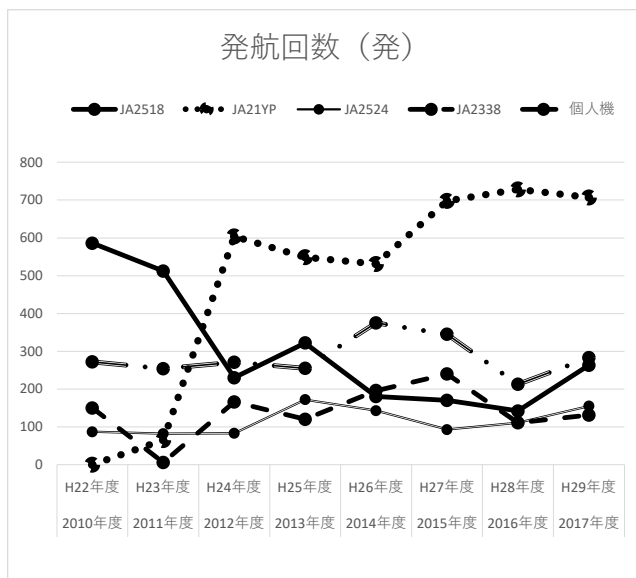
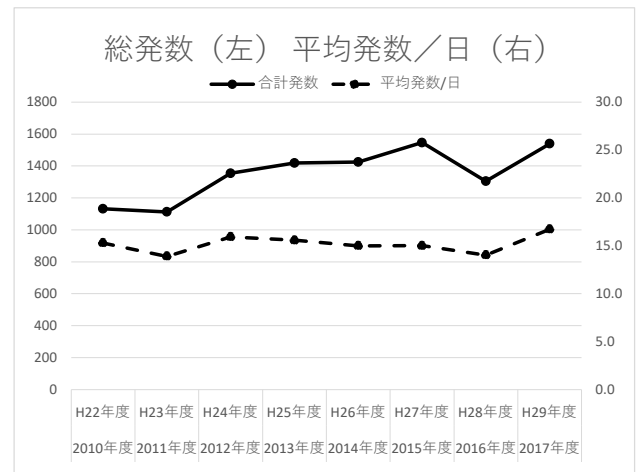
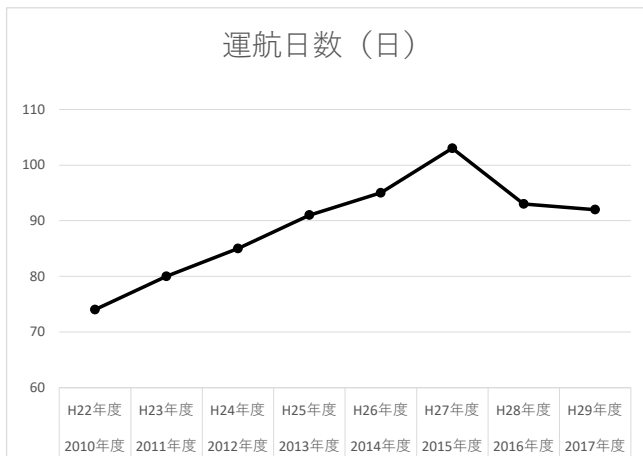
フライト実績一覧（2010年度～2017年度）

運航日数	2010年度 H22年度	2011年度 H23年度	2012年度 H24年度	2013年度 H25年度	2014年度 H26年度	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度
運航日数	74	80	85	91	95	103	93	92	

平均発数／日	2010年度 H22年度	2011年度 H23年度	2012年度 H24年度	2013年度 H25年度	2014年度 H26年度	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度
平均発数/日	15.3	13.9	15.9	15.6	15.0	15.0	14.0	16.7	#DIV/0!
合計発数	1132	1112	1354	1418	1425	1,546	1,305	1,539	

運航発数	2010年度 H22年度	2011年度 H23年度	2012年度 H24年度	2013年度 H25年度	2014年度 H26年度	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度
JA2518	586	512	230	322	180	170	142	263	
JA21YP	0	65	604	549	531	698	728	707	
JA2524	87	82	83	172	143	93	111	155	
JA2338	150	6	166	120	196	240	111	131	
個人機	272	254	271	255	375	345	213	283	
合計	1132	1112	1354	1418	1425	1,546	1,305	1,539	

フライト時間	2010年度 H22年度	2011年度 H23年度	2012年度 H24年度	2013年度 H25年度	2014年度 H26年度	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度
JA2518	157	169	96	133	65	69	56	102	
JA21YP	0	23	197	190	152	219	234	195	
JA2524	103	85	78	114	93	92	93	91	
JA2338	91	3	71	61	78	112	44	56	
個人機	449	419	485	696	832	698	431	556	
合計	828	805	927	1194	1220	1,190	858	1,001	



平成 29 年度 運営委員会 (記 種田)

平成 29 年 12 月 22 日 作成

1 目的と実施日

航空機の各種姿勢に対する緊急時対処を事前訓練する。運航の安全度をより一層高めるための練習。

日程は、平日を含めた 10/20(金)、21(土)、22(日)、23(月)の4日間にて計画。

曳航パイロット(浅田氏)、教官(櫻井氏)の都合もあり、最終的には 20、21 日の2日間、EMFT 訓練フライト他を実施した。

2 参加者、フライト実績

(1) 曳航機フライイン

10/14 長野フライトのなかった日、雨間を縫って高山からフライイン。係留。浅田氏はいったん列車で帰宅。

(2) 練習フライト

10/20 EMFT フライト5発

10/21 EMFT フライト6発、通常 AT 練習フライト8発

合計 19発 (EMFT フライトはスピン体験等の目的のため JA2518 プハッチを使用した)

(3) 台風、滑走路の冠水と曳航機フライアウト

10/21 台風 21 号の接近で曳航機は帰投できなくなり、残置する。

10/22 千曲川氾濫水位を超える。

10/23 04ピスト周辺まで冠水。係留したハスキーの車輪ぎりぎりまで冠水。

10/26 水が引く。次の台風 22 号の接近との合間を縫って、曳航機は板倉に無事帰還。

(4) アブガスの運搬

格納庫にある古い AVGAS は浅田氏も懸念し、未使用。

結局浅田氏が陸路(車)にて運搬往復して供給した。

3 事業費用

① 浅田さんフライトイン費用

フェリー代は 11,500 円(中航連 高山合宿と折半した)

② 櫻井玲子さんへの交通費、宿泊代、お礼

30,000 円

③ 練習曳航料他(ガス代は曳航料にすべて含む。曳航数全19発)

136,000 円(浅田氏への全支払額)

④ 浅田さんの帰投費用(板倉までの 30,000 円)

※ 浅田氏の謝礼は曳航料に含まれる事業のため、別途謝礼なし。

合計 事業費 = ①11,500+②30,000+④30,000 =71,500 円

4 成果

教官を中心に通常経験することの少ないフライト姿勢とリカバリーを経験することができた。

今後の安全運航継続のために、非常に有効であった。

以上